

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田(さざなみ)		
所在地	静岡市下田市5丁目6-58		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2270200161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は職員間で認知症ケアに対し同じ方向で情報を共有し、新しい知識を取り入れながら、入居者一人一人に合った対応をしています。ご家族様との信頼関係を大切にしており、入居者様に対し、連絡や報告をこまめにおこなっております。現在はコロナ禍のた外出支援等を自粛しておりますが、施設内で楽しめるよう行事やアクティビティケアの内容を工夫し、季節を感じながら過ごせるよう努めています。また、感染症対策にも力を入れ、感染拡大防止の為、職員一人一人が自覚を持ち業務に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の祭りや行事のほか、外食へと足しげく出かけることに定評のあった事業所ですが、数年前に法人代表が造ったビザ窯が、「外出できない」「来訪者を受け入れられない」現状にピッタリはまり、「やっていて良かったね」に突っ込んでいます。2階は渡り廊下の先に畑が、また1階はプランターで野菜を育てていて、職員が生地を練った上には利用者が育てたプチトマトなどの野菜を載せて、モチモチふわふわの出来立てピザを堪能しています。またコロナ禍で面会がなく家族と会えないため、葉書きと切手をリビングに備え、「書いてみようか」と声をかけて家族に近況を届けるなど、こまめな対応にも秀でています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解して頂き、各ユニットごとに理念を掲示し、見やすく意思しながら仕事ができるよう環境を整えている	理念は「家庭的～」「地域とのふれあい～」と具体的で分かり易く、また職員は浅い人で3年、開設からの人は16年と勤務が長く、浸透しています。利用者との関係が近く、「子どもを迎えにいく時間だよ」と教えてくれる利用者もいて、まさに家庭そのものです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加や寄付を行い、以前暮らしていた施設などと連絡を取り合い、関係が途切れないように、行事に参加し交流を深めている。	地域の祭りや行事のほか、外食にもこまめに地域店舗を利用していましたが、コロナ禍で事業所内に留まっている毎日です。唯一の地域とのふれあいは、職員が地元住民であることで、食卓を囲む機会などを通じて「こんなことあったよ」と話をふっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時や問い合わせ時に、ホームに来て頂き認知症に対して、どのような支援をしているのか説明し、認知症に関する相談業務も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での結果は家族、職員に報告し、意見を聞き、サービスの向上にいかしています	運営推進会議には、元職が校長先生で民生委員の経験もある地域代表にも出席してもらえ、法人内の事業所と合同で和気藹々とした雰囲気になってからは書面開催となっています。	2ヶ月分の資料をメンバーに送付くださっていますが、意見をもらえると(意見が会議録に加わると)なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間がある限り、市役所に出向き話し合いや相談の場を設けている、運営推進会議に市の担当者にも参加して頂き情報の交換を行っている	管理者が直接ではなく、法人本部が主に行政とのやりとりをおこなっています。今回の外部評価の実施方法についても事前に確認をとっており、日頃から下田市と連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件上、夜間のみ施錠している。身体拘束ゼロ宣言をし職員にも会議等で拘束の禁止を促し、資料などで身体拘束の勉強会を開催している	身体拘束未実施減算に係る取組みを整備し、「身体的拘束等の適正化委員会」は運営推進会議と併催することで、規程より2回多い隔月開催に至っています。利用者とは疑似家族のようでの和やかな関係にあるため、管理者は押れあいについてのみ気遣っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の状態観察を行い、虐待行為がないよう注意し、虐待行為の説明も職員に行っている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に細かく説明し、利用者や家族等が理解、納得を得たうえで手続きを進めていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を家族に伝え、毎月1回家族あてに利用者の様子を書いた手紙を出している。運営推進会議を開催した月には上記の手紙に加えて会議の内容を議事録として同封している	全ての家族と同様の関係づくりは難しいものの(後見人と保佐人がついている利用者が4名います)、関係が良好なことは本件における家族アンケートにも滲み、「ケアビレッジ下田たよりを送ってもらえ状況がよくわかり、姉妹にも見せている」との声もあがっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大事な決定事項に関して利用者の状況やサービスの実情を知っている職員の意見を十分に聞き生かしていくことを大切にしています	毎月全体会議終了後にフロアごとに分かれてユニット会議が開催されています。職員は勤務が長いこともあって忌憚ない意見をあげていて、例えば入浴を午前にしたのも、「午後を活動の時間に充てたい」との職員意見から実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と更新時に個人面談を行い、一人一人の職員からヒヤリングしている、また代表者は日頃の勤務状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整を行い多くの職員がスキルアップできるよう研修に参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区研修会やリハビリテーションセミナーなどに参加し、他の同業者と交流を深め、意見を交換している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前の生活状況を細かく家族や本人から聞き、職員に情報を共有し、良い関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の立場に立って話をしっかりと聞き、信頼関係を築くことに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に得た情報により、ホームのサービス内容を伝え本人と家族に話をし理解をしていただけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者と一緒に考え、寄り添いながら毎日を過ごし、喜怒哀楽を共に感じている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望時に電話連絡をし、利用者の状況を家族に報告して、家族と会話をし安心して頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで愛用していた物を持ち込んで頂く、外出支援で馴染みの場所を訪問している	家族の面会は取りやめていますが、突然訪れた親戚の人には窓越しに会ってもらうなど工夫しています。厚労省の配信メールや報道などを頼りに、都度方法を判断しており、現在はQRコードを活用したりリモート面会も可能となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、日々の生活が円滑に送れるよう職員が間に入りながら、利用者同士の関わり合いづくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もどのように過ごされているか病院や施設などへ面会に行っている、また、退居後もボランティア活動で家族が訪問してくれます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するように努めている。日常生活や活動の中から利用者の発言や行動からも嗜好や関心事を把握し、その共有に努めるようにしている。	利用者と職員は長いつきあいで、想いや意向の把握がスムーズです。コロナ禍で面会がなく家族と会えないため、葉書きと切手をリビングに備え、「書いてみようか」と声をかけて家族に近況を届けたり、携帯を持つ人には充電を気に掛ける等電話でのやりとりを増やしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークとアセスメントにおいて本人や家族、ケアマネからより多くの情報を収集し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の過ごし方を把握し、申し送りやケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点を話し合い、利用者の状況に応じた個別対応をすることで改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し、モニタリングは6ヶ月に1回、再アセスメントも6ヶ月に1回実施し、計画書の見直しをおこなっている。サービス担当者会議は入居時や更新時、その他入院などにより体調の大きな変化があった時に状態に合わせて行っている	個人の介護記録の脇に介護計画書が添えられ、2表のサービス内容を参照しつつ、その日「こういうことをしてこんな成果があった」と日々記録を残しています。計画作成担当者となる余剰も1名いて、今後の輩出も2名予定され、本件に係る人材育成にも余念がありません。	2表の担当者欄に職員以外の存在があると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用して全職員が情報を共有できるような体制を作り、問題点があれば話し合いを設け、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は二つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて柔軟な対応を取り、出来る限り必要とされる支援は連携しておこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れていた地域にも出かけるようにし、地域性を考えた支援を提供し、防災訓練に参加するなど、必要な地域資源との連携を持ち対応している。希望に応じて民生委員の施設見学や案内なども行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族や本人に確認した上でかかりつけ医と連絡を取り対応できるようにしている。専門外の科を受診する時のかかりつけ医に相談し指示を仰いでいる	協力医(月1回)、訪問歯科医(口腔ケアで2ヶ月1回)は、1名毎の消毒をこまめにおこなってくださいます(コロナ対応)。訪問診療では2名の医師と看護師に対して、管理者と各ユニットリーダーが立ち合い、医療の申し送りノート(特変は個人記録へ)に記録をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回勤務する看護と連携しながら、利用者の医療情報を共有し、適切な対応が出来るように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は面会に行き、医療担当者や家族から状態を伺い、情報交換などの対応ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要な場合は取り組みが難しいため、契約時に出来る事出来ないことを説明し理解してもらっている。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき「看取りをおこなわない」ことを家族と契約時に合意形成しています。家族も高齢となっていることもあり、重度化に際しては移設先を探す手伝いのほか、荷物の搬出、搬入や先方への情報の受け渡しなど、最後まで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るようマニュアルを作成している。急変や事故発生時に備えて消防署などに出向き応急手当などの講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合防災訓練を行い、職員全員が避難方法などを身につけられるよう対策を取っている、地域の防災訓練にも参加している	消防署の立ち合いを例年どおりお願いしたものの、コロナに配慮くださり、主要ポイントの確認のみでした。また地域の防災訓練にはサイレンが鳴ると、歩ける利用者と職員で避難場所に駆けつけ、ふれあいの場としても確立していましたが、本年は中止となっています。	面会の自粛もあり、今後の防災訓練には171(災害時非常伝言ダイヤル)を通じて家族の参加があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の時間を大切にできるよう居室の扉を閉めるようにしています。利用者に対して年長者として心得た上で特に言葉使いに注意を払っている。	リビングでは皆のリクエストで手わざを披露しても「集中してやりたい」と居室で帽子を編んだり、また手紙を書いて過ごす人もいます。携帯保持者も4名おり、毎晩かけている人もいて、職員は充電を手伝ったり、自身のセーターをほどいて毛糸を準備しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では思いや希望を尊重し、本人の意思を大切にしている、また自己決定が難しい人にはその方の立場に立った考えや働きをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での支援ではなく、本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は月に1回散髪を行い、希望に応じてお化粧道具を個人で居室に置き、自由におしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、食事の準備、盛り付けなどに参加してもらっている。また、旬の食材を利用し季節感のあるメニュー作りを推進している。	餃子パーティー、手作りピザ、バイキングが毎月のように予定され、また土用の丑の日はひつまぶし、敬老会には海鮮ちらしと紅白饅頭等と、行事食も盛んです。利用者も胡麻をすったり、食器洗いや盛り付けに加わり、食事は1日の中で充実度の高い時間帯です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取方法を考え食事を提供して居る、利用者の状態に合わせ食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアをおこなっている、また、義歯使用の人には定期的に入れ歯洗浄剤を使用している。2ヶ月に1回歯科の訪問診療がある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄方法を考えスムーズに排泄できるようにしている。排泄表を作成することにより排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄できるように促している。	排泄チェック表はこれまで時間記録のみでしたが、「分」までを入れるようにして、間隔の把握をさらに細かくしています。また排尿と排便は赤黒で色分けで記録、失敗(尿漏れ)は記号で示すことにも取り組み、おむつからリハパンに向上した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、乳製品の摂取や軽い運動を促し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には必ず声掛けをし本人の意思を確認している、本人の意見を取り入れて入浴剤や季節湯でその時々季節を楽しんで頂いている。	2日おき(週3回程度)を目安とし、一人ひとり湯を入れ替え、好みのMY浴剤を使用する人もいます。事業所で用意する浴剤は数種類と選べるように配し、玄関先に咲く菖蒲の花の葉で菖蒲湯としたり、職員の自宅実る柚子を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考え、いつでもフロアーや居室で休めるような環境を整えている。体調の変化に応じて声掛けを行い居室やソファなどで速やかに休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは看護師や管理者、リーダーから申し送りがあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を把握し、得意とすることを見つけ出来る役割をお願いしている。レクリエーションには個々の趣味や興味があることを取り入れながら、楽しみのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じた柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるだけでなく、交流を深めるためにユニット合同で外出している。また、季節感を重んじ春には桜見物など季節の特色を意識して外出支援を行っている	観光地なことからお祭りや行事が目白押しで、事業所でも欠かさずお出かけしていましたが、コロナ禍ですべて中止となり、所内レクを充実させています。野菜の収穫と手作りピザ、BBQ、(手持ち)花火鑑賞、流しそうめんetc.と、毎月ミニイベントを重ねています。	これまでも1月、2月は感染症対策として外出を控えていたとのことですが、「降らないドライブ」でリフレッシュできたら良いと思います

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、一緒に買い物に行くなど使える場を提供している。個人で管理出来ない場合は家族の承諾の上、小遣金として管理し、欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に制限なく電話をしている。電話をしたい方は自由に連絡が出来るよう取り次ぎをしている。手紙やはがきが送られて来たときは本人に渡し、返信を出すときはあて名の確認や投函など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには家族から頂いた生花を飾り、季節を感じて頂く。共有空間などには温かみを感じられるよう自然灯を使用し、ソファを多く設置し、ゆったりと時間が流れるようくつろぎの空間を作っている。	コロナ禍となり、常に消毒できるようアルコールを置く場所を増やしています。朝、利用者が居室から出ると窓を開け、昼食後に戻るとき閉めるといように、利用者不在のエリアを常に開放して空気の入れ替えをおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内の家具の配置は、利用者に危険がないよう十分配慮し、身体機能に合わせた物を配置している。利用者の席に場所については利用者間の関係性などを考慮して設定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように使い慣れた家具を持ち込んでもらい、家族に協力してもらいながら好みの品や記念品など安全性を考慮し、本人の特色が生きた部屋になるように自由に配置してもらっている。	入居にあたってはADLの状態を鑑みて家具の位置を検討し、その人に合った動線を確保しています。就寝だけでなく、普段から毛糸でアクリルたわしを編むなど独居の時間を親しむ人もいするため、空室となる時を掴んでアルコール消毒と換気を増やしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はユニバーサルデザインを取り入れ安全で自立できる生活の実現に取り組んでいる。利用者の状態に応じてリフォームなどおこない、生活しやすい環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田(磯の香)		
所在地	静岡市下田市5丁目6-58		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2270200161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は職員間で認知症ケアに対し同じ方向で情報を共有し、新しい知識を取り入れながら、入居者一人一人に合った対応をしています。ご家族様との信頼関係を大切にしており、入居者様に対し、連絡や報告をこまめにおこなっております。現在はコロナ禍のた外出支援等を自粛しておりますが、施設内で楽しめるよう行事やアクティビティケアの内容を工夫し、季節を感じながら過ごせるよう努めています。また、感染症対策にも力を入れ、感染拡大防止の為、職員一人一人が自覚を持ち業務に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の祭りや行事のほか、外食へと足しげく出かけることに定評のあった事業所ですが、数年前に法人代表が造ったビザ窯が、「外出できない」「来訪者を受け入れられない」現状にピッタリはまり、「やっていて良かったね」に突っ込んでいます。2階は渡り廊下の先に畑が、また1階はプランターで野菜を育てていて、職員が生地を練った上には利用者が育てたプチトマトなどの野菜を載せて、モチモチふわふわの出来立てピザを堪能しています。またコロナ禍で面会がなく家族と会えないため、葉書きと切手をリビングに備え、「書いてみようか」と声をかけて家族に近況を届けるなど、こまめな対応にも秀でています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解して頂き、各ユニットごとに理念を掲示し、見やすく意思しながら仕事ができるよう環境を整えている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加や寄付を行い、以前暮らしていた施設などと連絡を取り合い、関係が途切れないように、行事に参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時や問い合わせ時に、ホームに来て頂き認知症に対して、どのような支援をしているのか説明し、認知症に関する相談業務も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での結果は家族、職員に報告し、意見を聞き、サービスの向上にいかしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間がある限り、市役所に出向き話し合いや相談の場を設けている、運営推進会議に市の担当者にも参加して頂き情報の交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件上、夜間のみ施錠している。身体拘束ゼロ宣言をし職員にも会議等で拘束の禁止を促し、資料などで身体拘束の勉強会を開催している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入居者の状態観察を行い、虐待行為がないよう注意し、虐待行為の説明も職員に行っている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に細かく説明し、利用者や家族等が理解、納得を得たうえで手続きを進めていく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を家族に伝え、毎月1回家族あてに利用者の様子を書いた手紙を出している。運営推進会議を開催した月には上記の手紙に加えて会議の内容を議事録として同封している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大事な決定事項に関して利用者の状況やサービスの実情を知っている職員の意見を十分に聞き生かしていくことを大切にしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と更新時に個人面談を行い、一人一人の職員からヒヤリングしている、また代表者は日頃の勤務状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整を行い多くの職員がスキルアップできるよう研修に参加できる体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区研修会やリハビリテーションセミナーなどに参加し、他の同業者と交流を深め、意見を交換している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前の生活状況を細かく家族や本人から聞き、職員に情報を共有し、良い関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の立場に立って話をしっかりと聞き、信頼関係を築くことに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に得た情報により、ホームのサービス内容を伝え本人と家族に話をし理解をしていただけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者と一緒に考え、寄り添いながら毎日を過ごし、喜怒哀楽を共に感じている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望時に電話連絡をし、利用者の状況を家族に報告して、家族と会話をし安心して頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで愛用していた物を持ち込んで頂く、外出支援で馴染みの場所を訪問している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、日々の生活が円滑に送れるよう職員が間に入りながら、利用者同士の関わり合いづくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もどのように過ごされているか病院や施設などへ面会に行っている、また、退居後もボランティア活動で家族が訪問してくれます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するように努めている。日常生活や活動の中から利用者の発言や行動からも嗜好や関心事を把握し、その共有に努めるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークとアセスメントにおいて本人や家族、ケアマネからより多くの情報を収集し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の過ごし方を把握し、申し送りやケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点を話し合い、利用者の状況に応じた個別対応をすることで改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し、モニタリングは6ヶ月に1回、再アセスメントも6か月に1回実施し、計画書の見直しをおこなっている。サービス担当者会議は入居時や更新時、その他入院などにより体調の大きな変化があった時に状態に合わせて行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用して全職員が情報を共有できるような体制を作り、問題点があれば話し合いを設け、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は二つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて柔軟な対応を取り、出来る限り必要とされる支援は連携しておこなっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れていた地域にも出かけるようにし、地域性を考えた支援を提供し、防災訓練に参加するなど、必要な地域資源との連携を持ち対応している。希望に応じて民生委員の施設見学や案内なども行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族や本人に確認した上でかかりつけ医と連絡を取り対応できるようにしている。専門外の科を受診する時にかかりつけ医に相談し指示を仰いでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回勤務する看護と連携しながら、利用者の医療情報を共有し、適切な対応が出来るように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は面会に行き、医療担当者や家族から状態を伺い、情報交換などの対応ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要な場合は取り組みが難しいため、契約時に出来る事出来ないことを説明し理解してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るようマニュアルを作成している。急変や事故発生時に備えて消防署などに出向き応急手当などの講習を受け実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合防災訓練を行い、職員全員が避難方法などを身につけられるよう対策を取っている、地域の防災訓練にも参加している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の時間を大切にできるよう居室の扉を閉めるようにしています。利用者に対して年長者として心得た上で特に言葉使いに注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では思いや希望を尊重し、本人の意思を大切にしている、また自己決定が難しい人にはその方の立場に立った考えや働きをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での支援ではなく、本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は月に1回散髪を行い、希望に応じてお化粧道具を個人で居室に置き、自由におしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、食事の準備、盛り付けなどに参加してもらっている。また、旬の食材を利用し季節感のあるメニュー作りを推進している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取方法を考え食事を提供してい居る、利用者の状態に合わせ食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアをおこなっている、また、義歯使用の人には定期的に入れ歯洗浄剤を使用している。2ヶ月に1回歯科の訪問診療がある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄方法を考えスムーズに排泄できるようにしている。排泄表を作成することにより排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄できるように促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、乳製品の摂取や軽い運動を促し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には必ず声掛けをし本人の意思を確認している、本人の意見を取り入れて入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考え、いつでもフロアや居室で休めるような環境を整えている。体調の変化に応じて声掛けを行い居室やソファなどで速やかに休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは看護師や管理者、リーダーから申し送りがあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を把握し、得意とすることを見つけ出来る役割をお願いしている。レクリエーションには個々の趣味や興味があることを取り入れながら、楽しみのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じた柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるだけではなく、交流を深めるためにユニット合同で外出している。また、季節感を重んじ春には桜見物など季節の特色を意識して外出支援を行っている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、一緒に買い物に行くなど使える場を提供している。個人で管理出来ない場合は家族の承諾の上、小遣金として管理し、欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に制限なく電話をしている。電話をしたい方は自由に連絡が出来るよう取り次ぎをしている。手紙やはがきが送られて来たときは本人に渡し、返信を出すときはあて名の確認や投函など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには家族から頂いた生花を飾り、季節を感じて頂く。共有空間などには温かみを感じられるよう自然灯を使用し、ソファを多く設置し、ゆったりと時間が流れるようくつろぎの空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内の家具の配置は、利用者に危険がないよう十分配慮し、身体機能に合わせた物を配置している。利用者の席に場所については利用者間の関係性などを考慮して設定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように使い慣れた家具を持ち込んでもらい、家族に協力してもらいながら好みの品や記念品など安全性を考慮し、本人の特色が生きた部屋になるように自由に配置してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はユニバーサルデザインを取り入れ安全で自立できる生活の実現に取り組んでいる。利用者の状態に応じてリフォームなどおこない、生活しやすい環境を整えている。		